

# 水稻育苗用シートの効果確認試験



JAむかわ

JAむかわ稲作研究会



①慣行区展張



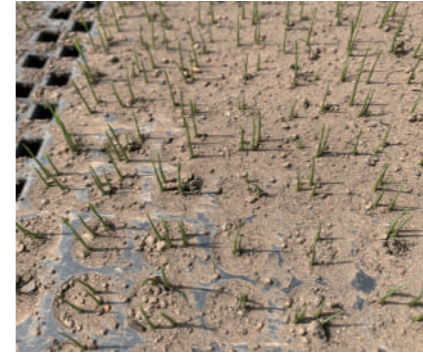
②試験区展張



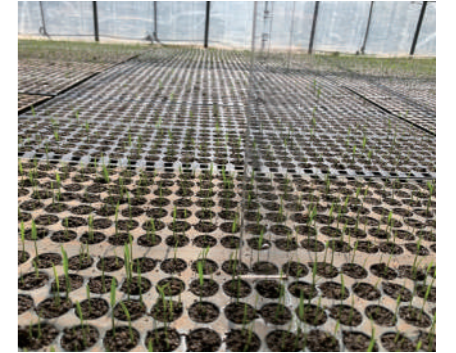
③慣行区(軽度な苗焼け)



④慣行区



⑤試験区(苗焼け無し)



⑥試験区

### 試験目的

水稻育苗用シートの効果確認:

JAむかわでは水稻育苗用のべた掛け資材として"シルバーポリトウ"が使用されている。昨年、苗焼けを軽減できる"太陽シート"を試験した。太陽シートは温度上昇が抑制され苗焼けを防げた。一方で、気温の低い年ではシルバーポリトウよりも生育が遅れてしまうことが懸念された。そこで今回、保温性と反射性の機能を両立した"ハイホワイトシルバー"の試験を実施し、その効果を確認する。

### 試験作物及び品種

水稻

### 試験資材及び数量(規格)

ハイホワイトシルバー  
(試験区A:0.05mm×270cm×100m、試験区B:0.05mm×300cm×100m)

### 慣行資材

シルバーポリトウ#90

### 資材使用期間

4月下旬～5月上旬

### 試験結果

#### (1)作業性について(慣行品との比較)

慣行と同様に作業ができた。昨年、太陽シートを試験した際は、中継ぎ部分が浮いてしまう、端が丸まってしまう押さえが必要であったが、ハイホワイトシルバーでは解消された。

#### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

[出芽率]

試験区、慣行区ともに同程度の出芽率であったが試験区では一部、軽度な焼けの症状(白化)が見られた。

試験区A:試験区 95%以上

慣行区 95%以上(一部、軽度な焼けの症状)

試験区B:試験区 90~95%

慣行区 90~95%

#### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】:ハイホワイトシルバーの方が高温時に温度が抑制されている。また、太陽シートよりは保温力がある。高温、低温でも対応しやすく、安心感がある。

#### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行、試験区共に同様に展張できた。恐らく同程度の年数使用できると感じている。

#### (5)保温効果について

温度計を確認すると、慣行よりも温度が抑制されていたが、昨年試験した太陽シートよりも保温力が高く感じた。

### モニター感想

昨年、苗焼けの軽減を期待して太陽シートを試験したが、気温が低い年だと逆に生育に不安が残ると感じた。一方で、今年試験したハイホワイトシルバーは保温をしつつ、苗焼けも軽減でき、安心して育苗することができた。来年度以降も使用していきたい。

### JA担当者の感想(営農部 星野係長)

近年、気候変動により北海道でも育苗時期に猛暑となり、苗焼けの被害が増えていた。昨年、太陽シートを試験したが、播種時期に合わせて使わないと生育不良になる可能性があり、普及には至らなかった。今回試験したハイホワイトシルバーでは慣行品よりも温度を抑えつつ、ある程度の保温力があることがわかり、4月中旬播種でも問題無く使用できると確認できた。来期以降、普及を進めていきたい。

### 今後の使用について

継続して使用したい。  
苗焼けするリスクを考えるとハイホワイトシルバーの方が、使いやすい。